

同志社大学

同志社社史資料センター報



第13号
2016年度

1. 巻頭言: 2016年度の報告にあたって
2. コラム: 「新島公義宛書簡等資料」の整理と紹介
3. 資料業務
4. 展示
5. 研究活動
6. 第174回新島襄生誕記念会
7. ハリス理化学館同志社ギャラリー
8. 新島旧邸
9. 委員会

2016年度の報告にあたって

同志社社史資料センター
所長 小林 丈広

2016年度は、同志社が未来に向けて着実に歩むにあたり、同志社社史資料センターが日常的に抱えている課題を解決しながら、地道に基礎固めをする年となった。

ハリス理化学館同志社ギャラリーでは、次のような展示を開催した。まず2016年5月10日から6月25日まで天文同好会との共催で特別展として同志社大学天文同好会創立50周年「新島襄の見た宇宙」を開催した。さらに、12月6日から27日にかけて第11回企画展として「同志社社史資料センター新収蔵品展—新島公義宛書簡等資料の紹介—」を開催した。

また、同志社大学歴史資料館の主催により8月25日から9月18日まで第9回企画展「考古もいっぱい!大学は宝箱!京都・大学ミュージアム連携合同展」が、11月19日から12月3日まで第10回企画展「二条家文書の世界」が開催された。第10回企画展の際には、橋本政宣氏による記念講演会「二条家伝来の天皇即位の関係文書」が行われ、古文書の魅力がわかりやすく紹介された。

一方、「同志社の今」では、2016年4月1日から5月7日まで同志社大学美術部クラマ画会の春の学内展、5月10日から28日まで同志社大学経済学部経済学科岸基史ゼミナールによる特別陳列「里山ひととき展」、5月31日から6月25日までゴアレーベン・ポスター展京都巡回実行委員会による「ゴアレーベン“ATOMKRAFT NEIN DANKE”—ポスターに見る核廃棄物処分場反対運動—」展が開催され、金平茂紀氏による特別講演「ドイツで見た脱原発」をはじめ、数々の関連イベントが行われた。さらに、7月29日から9月24日まで写真展「一体感—スポーツのもうひとつの魅力—」、10月4日から15日までクラマ画会による「みんなの秋、だれかの秋」、11月10日から2017年1月14日にかけては同志社大学京都と茶文化研究センターによる「国際コンペティション「21世紀の茶室」入選作品展」、1月17日から28日まで同志社大学写真同好会による冬季写真展「水」、2月3日から18日まで同志社女子大学学芸学部情報メディア学科二瓶ゼミ卒業研究成果発表展、3月14日から25日までNPO法人ナルク京都「ことの会」による特別陳列「東日本大震災・原発事故から7年目の福島の実状」、3月28日から5月6日まで同志社大学美術部クラマ画会の春の学内展「いぶき」が開催されるなど、一年を通して多様な企画が行われた。同志社ギャラリーが開館して4年目を迎え、学生の課外活動やゼミの研究成果を発信する場として定着しつつあるといえよう。

さて、いよいよ同志社創立150周年まであと8年となった。当センターではそれに備えて、資料の収集・整理・保存という、大学アーカイブとしての本来業務に本格的に取り組んでいる。『同志社百年史』の編纂以来、数多くの資料が収集されたものの、活用されているのはごく一部である。まずは、それらの整理を進め、将来の編纂事業、あるいは活用・公開に対応できるようにしたい。今後とも、同志社内外の方々のご協力をお願いしたい。

「新島公義宛書簡等資料」の整理と紹介

同志社社史資料センターでは、資料を日常的に収集・調査を行い、利用者への便宜を図るとともに、保存も行っている。

昨年度は新島襄の実弟・双六の養子である新島公義（1861－1924）関係資料を古書店より購入した。その後調査を開始、仮目録を作成した。そして2016年12月6日から27日までハリス理化学館同志社ギャラリーにおいて一部の資料を紹介した（ハリス理化学館同志社ギャラリー第11回企画展「同志社社史資料センター新収蔵品展—新島公義宛書簡等資料の紹介—」）。

この資料群は全852点（内730点が葉書）、時期は1888年（明治21）から1903年（明治36）で、ほとんどが公義宛ての書簡である。書簡の差出人には、公義の実家である植栗家や、実業家・政治家で同志社理事もつとめた中村栄助、ジャーナリストの徳富蘇峰など、同志社関係者が多く含まれていた。資料のうち年賀状が326点とかなりの部分を占めるが、この他に公義の新潟・長野での伝道、同志社とアメリカンボードとの対立、公義の実業界転身に関する資料もある。

公義は、1890年（明治23）の襄没後、次第に同志社との関係が希薄になっていく。そのため公義の生涯は口承により説明されることが多く、資料的な裏付けが十分になされていない。この点からすると、本資料群は、特に襄没後の公義の動向や人物交流を知る上で、興味深いものといえるだろう。展示ではこの中から12点を公義の活動などから、伝道・同志社・「実業」・家族といった4つのテーマに分けて紹介した。今回はあくまでも紹介であり、今後、さらにこの資料、及び周辺を分析・調査することで、今まで不明瞭であった新島公義の人物像や交流について明らかになるだろう。

なお企画展開催期間中の12月14日に、公義のご子孫で社友の新島公一氏が実弟の新嶋信義氏と、また翌週の22日には公一氏の従弟新嶋昌泰氏も来学、企画展示を見学された。その後、新島公一氏ご自身の所蔵資料の寄贈を受けた。今後の研究に大いに有益な資料であり、末尾ながら謝意を表したい。

同志社大学同志社社史資料センター



社史資料調査員から説明を受ける
新島公一氏、新嶋信義氏

資料業務

1. 資料数

遺品庫資料	約6,500点
社史資料	約12,200点
図書	12,624冊
逐次刊行物	1,079タイトル

2. 参考業務(レファレンス・サービス)利用件数

文献調査	212件
事項調査	460件
その他	35件

3. 資料提供(写真資料を中心に)

(株)アルバ	(株)ネクサス
(株)千代田クラフト	(財)日本聖書協会聖書図書館
同志社校友会大阪支部	学校法人 新島学園
(株)フェアウィンド	産経新聞社 事業本部
福島県いわき市立いわき総合図書館	学校法人山陽学園
一般財団法人福島県教育会館「夏休みの友」編集事務局	(株)シーオーツー
(株)現代ぷろだくしょん	株式会社スタジオポルト
日々の新聞社	株式会社宝島社
(財)池坊華道会	株式会社天夢人
いのちのことば社	テレコムスタッフ株式会社
春日学区自治連合会	テレビ東京「歴史の道 歩き旅」
合同会社浩然社	(財)とうほう地域総合研究所
クラブツーリズム(株)	株式会社トップシーン
(株)教文館	(株)ウエストプラン
(株)共同テレビジョン	若松城天守閣郷土博物館
株式会社メルプランニング	

博物館実習の受け入れ

【同志社大学「学外実習」受け入れについて】

本年度は8名の学生を受け入れ、2グループ(第1期 8月1日～3日、第2期 8月8日～10日)に分けて、毎日3時間、合計9時間の実習を行った。テーマを「展示設営実習と企画展の企画立案内容構成の演習」と設定し、常設展示室を利用した展示設営の実習(1日目)、同志社ギャラリーの見学及びコンセプトと運営方針の説明(2日目)、2日間の実習内容をふまえた企画立案演習(3日目)を実施した。



作業風景



演習風景

【同志社女子大学の「博物館実習」受け入れについて】

本年度は3名の学生を受け入れ、8月22～26日の5日間、毎日6時間の実習を実施した。実習では①施設・設備、②資料の取り扱いと調査、③資料保存・管理、④資料展示に関する講義・見学と実習指導を行った。①では常設展示や企画展示、バックヤード、収蔵庫など施設の見学を行った。②では紙資料を中心に軸や卷子など、実物資料の取り扱い方や卒業アルバムの資料調査書作成と写真撮影を行った。③では資料が実際どのように保存され、管理されているかを見学した。④では常設展示資料の入れ替え、キャプションパネルの作成、資料調査を行った資料から企画展示案を各自で立案し、発表してもらった。



作業風景

展 示

1. 展示活動

ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示室

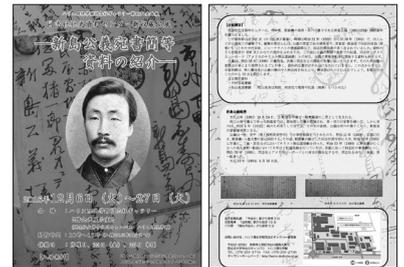
特別展

テーマ：同志社大学天文同好会創立50周年「新島襄の見た宇宙」
期 間：2016年5月10日(火)～2016年6月25日(土)
共 催：同志社社史資料センター・同志社大学天文同好会
協 力：同志社大学図書館
来場者数：7,939人
実施日数：36日



第11回企画展

テーマ：同志社社史資料センター新収蔵品展
—新島公義宛書簡等資料の紹介—
期 間：2016年12月6日(火)～2016年12月27日(火)
主 催：同志社社史資料センター
来場者数：3,791人
実施日数：17日



常設展示室「同志社の今」特別陳列

第9回

テーマ：同志社大学美術部クラマ画会「春の学内展」
期 間：2016年3月29日(火)～2016年5月7日(土)
主 催：同志社大学美術部クラマ画会
来場者数：2,337人
実施日数：25日



第10回

テーマ：同志社大学経済学部経済学科岸基史ゼミナール「里山ひととき展」
期 間：2016年5月10日(火)～2016年5月28日(土)
主 催：同志社大学経済学部経済学科 岸基史ゼミナール
協 力：NACS-J自然観察指導員奈良連絡会、奈良県高山茶笄生産協同組合、
やまあそび製作委員会、与名正三(フォトオフィスYONA)
来場者数：1,176人
実施日数：16日



第11回

テーマ：ゴアレーベン“ATOMKRAFT NEIN DANKE”
—ポスターに見る核廃棄物処分場反対運動—
期 間：2016年5月31日(火)～2016年6月25日(土)
主 催：ゴアレーベン・ポスター展京都巡回実行委員会
共 催：主婦連合会、一般財団法人主婦会館、
TEGAMI-Perspektiven japanischer Künstler
協 力：Gorleben Archiv e.V.
来場者数：2,273人
実施日数：20日



第12回

テーマ：写真展「一体感—スポーツのもうひとつの魅力—」
期 間：2016年7月29日(金)～2016年9月24日(土)
主 催：同志社社史資料センター
協 力：同志社大学学生支援センタースポーツ支援課
来場者数：5,644人
実施日数：39日



第13回

テーマ：同志社大学美術部クラマ画会后期展「みんなの秋、だれかの秋」
期 間：2016年10月4日(火)～2016年10月15日(土)
主 催：同志社大学美術部クラマ画会
来場者数：1,366人
実施日数：10日



第14回

テーマ：国際コンペティション「21世紀の茶室」入選作品展
期 間：2016年11月10日(木)～2017年1月14日(土)
主 催：同志社大学京都と茶文化研究センター
来場者数：6,252人
実施日数：45日



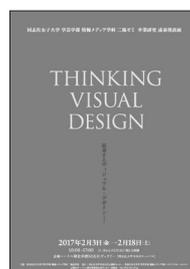
第15回

テーマ：同志社大学写真同好会冬季写真展「水」
期 間：2017年1月17日(火)～2017年1月28日(土)
主 催：同志社大学写真同好会
来場者数：1,186人
実施日数：10日



第16回

テーマ：同志社女子大学学芸学部情報メディア学科二瓶ゼミ
「卒業研究成果発表展」
期 間：2017年2月3日(金)～2017年2月18日(土)
主 催：同志社女子大学学芸学部情報メディア学科 二瓶研究室
協 力：同志社女子大学学芸学部情報メディア学科メディアサポートセンター、
同志社社史資料センター
来場者数：1,004人(常設展示室「同志社の今」、957人(企画展示室1)
実施日数：11日



第17回

テーマ：東日本大震災・原発事故から7年目の福島の現状
期 間：2017年3月14日(火)～2017年3月25日(土)
主 催：NPO法人ナルク京都「ことの会」
協 力：浪江町役場、福島民友新聞社、同志社社史資料センター
来場者数：1,143人
実施日数：11日



第18回

テーマ：同志社大学美術部クラマ画会春の学内展「いぶき」
期 間：2017年3月28日(火)～2017年5月6日(土)
主 催：同志社大学美術部クラマ画会
来場者数：361人(2017年3月31日現在)
実施日数：29日



2. 展示協力

新島会館への展示協力

「新島八重の生涯」をテーマに、新島八重関係資料(レプリカ)と写真パネルを貸出

同志社京田辺会堂光館ラウンジ展への展示協力

上記で実施された第3期展「新島襄と自然科学」(会期:2016年3月～9月) 第4期展「新島襄のGo Global—海を越えて—」(会期:2016年9月～2017年3月)において、企画、立案、準備、設営に関して協力

「川俣シルク「八重の桜」衣装展」への展示協力

かわまたおりもの展示館が主催する上記企画展(会期:2017年4月16日～6月5日)へ新島八重関係写真パネル8枚を貸出

「没後20年「司馬遼太郎展—21世紀“未来の街角で”」への展示協力

産経新聞社・公益財団法人司馬遼太郎記念財団が主催する上記企画展(会場:阪神百貨店6階催事場 会期:2016年12月14日～25日)へ司馬遼太郎遺墨扁額「侘儻不羈」一面を貸出

地域協力

- ・2016年9月16日(金)、京都市立第三錦林小学校6年生の人権学習に協力し、尹東柱詩碑及び鄭芝溶詩碑を説明



説明風景

- ・2016年12月12日(月)、京都市文化観光資源保護財団主催の文化財特別鑑賞事業に協力し、ミニ講義とキャンパスツアーを実施



キャンパスツアー風景

研究活動

機関誌の刊行や第1部門研究(新島研究)の研究会や機関紙の刊行は次の通りである。

1. 第1部門研究(新島研究)研究会(代表 横井 和彦)

第155回例会	2016年4月11日(月) 『新島研究』107号論評会 “God and the Gorilla Religion and Science at Niiijima’s Amherst” 報告者：ギャビン ジェームス キャンベル 論評者：北垣 宗治 「新島襄と百足屋と愛松園—最晩年の新島が大磯で暮らした場所はどこか—」 報告者：大越 哲仁 論評者：本井 康博 「J. N. Harrisのメッセージ—J. N. Harrisの手紙から—」 報告者：森 一郎 論評者：大鉢 忠
第156回例会	2016年5月9日(月) 「新島襄と「築地バンド」—田村直臣との交流をめぐって—」 報告者：本井 康博
第157回例会	2016年6月13日(月) 「新島襄と徳富蘇峰」 報告者：伊藤 彌彦
第158回例会	2016年7月11日(月) 「新島襄の福島伝道—会津若松教会の設立を巡って—」 報告者：山下 智子
第159回例会	2016年8月6日(土) 「新島襄受洗150年記念シンポジウム」 報告 1「新島伝の謎『授洗者は誰か』を解く」 報告者：本井 康博 報告 2「新島襄のキリスト教」 報告者：北垣 宗治 コメント「同志社大学のキリスト教—その再確認と推進」 報告者：横井 和彦 シンポジウム総合討論 個別報告① 「襄の梅と八重の梅—2編の寒梅の詩について—」 報告者：大越 哲仁 個別報告② 「歴史家徳富蘇峰著『近世日本国民史』朝鮮の役：蘇峰の観察眼の魅力と活力」 報告者：吉田 曠二
第3回同志社 を語る会	2016年9月12日(月) 「新島襄の足跡を辿る—英国編 リバプール、マンチェスター、グラスゴー、 エディンバラ、ロンドン、オックスフォード、ケンブリッジ—」 報告者：田島 繁

第160回例会	2016年10月17日(月) 「下村孝太郎米国留学中の新島襄との往復書簡」 報告者：森 一郎
第161回例会	2016年11月14日(月) 「権力と自由—柏木義圓の闘い—」 報告者：坂井 誠
第162回例会	2016年12月12日(月) 「大正デモクラシーと同志社—海老名弾正の大学改革構想」 報告者：西田 毅
第163回例会	2017年1月16日(月) 「シーリー夫人とジェイムズ兄弟の血縁関係—系譜の詳細と“いとこ”同士の交流—」 報告者：磯 英夫

第1部門研究(新島研究)運営委員会(2016年度)

横井 和彦(代表)、井上 勝也、北垣 宗治、小崎 眞、森 一郎、森永 長壹郎、本井 康博、大鉢 忠、大島 中正、竹山 幸男、富田 正樹、山本 真司

2. 第1部門機関誌

『新島研究』第108号 A5判 172頁 2017年2月28日発行

論 叢	新島襄受洗150年記念シンポジウム	
	新島伝の謎「授洗者は誰か」を解く	本井 康博
	新島襄のキリスト教	北垣 宗治
	同志社大学のキリスト教主義の再確認と推進のための取り組み	横井 和彦
	シンポジウム総合討論	
	新島襄の福島伝道—会津若松教会の設立を巡って—	山下 智子
	襄の寒梅と八重の寒梅—2編の寒梅の詩に関する疑問を解く—	大越 哲仁
	シーリー夫人とジェイムズ兄弟の血縁関係—系譜の詳細と“いとこ”同士の交流—	磯 英夫
資料紹介	木山巖太郎の著書と同志社時代のノート	本井 康博
エッセイ	徳富蘇峰著『近世日本国民史』にみる織田信長と豊臣秀吉	吉田 曠二
	新島襄の足跡を辿る—近畿編：生野銀山、出石、城崎温泉、宮津・天橋義塾	
	北陸編：山中温泉、大聖寺、福井、長浜教会—	田島 繁

『新島研究』編集委員会(2016年度)

横井 和彦(委員長)、井上 勝也、北垣 宗治、小崎 眞、森 一郎、森永 長壹郎、本井 康博、大鉢 忠、大島 中正、竹山 幸男、富田 正樹、山本 真司

3. 機関誌

『同志社談叢』第37号 A5判 184頁 2017年3月1日発行

論 叢	新島襄の移動手段(国内) 新島襄とその「女装説」再論—竹内・小枝両論を読んで—	宮澤 正典 関口 徹
資料紹介	徳富猪一郎旧蔵新島書簡・文書について —石川武美記念図書館成篁堂文庫収蔵資料より 公家屋敷地処分に関する京都府行政文書の検討 占領軍GI、O・W・フロストが語るミス・デントン1945—46 占領軍同志社関係資料(1) 合衆国第六軍による同志社大学幹部への非公式インタビュー あゝ 熊本洋学校教師「ジェーンズ邸」全壊!	石倉 和佳 加藤 雄太 坂本 清音 伊藤 彌彦 黒田孔太郎
目 録	新島襄関連の文献目録(35) 購入資料・受贈資料目録	

『同志社談叢』編集委員会(2016年度)

小林 丈広(委員長)、伊藤 彌彦、物部 ひろみ、大島 中正、横井 和彦

4. 刊行物

『同志社大学同志社社史資料センター報』第12号(2015年度)

(2016年4月発行)

『2016年度新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集2017』

(2017年3月発行)

『新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集』編集委員会(2016年度)

富田 正樹(委員長)、北垣 宗治、小崎 眞、本井 康博

第174回 新島襄生誕記念会

日時：2017年2月13日(月) 17:30～19:15

場所：同志社礼拝堂

表彰

第24回新島研究功績賞

吉田 曠二(朝日新聞社客員、同志社社史資料センター第一部門研究会員)

新島襄生誕記念懸賞論文(2016年度)

【中学校の部】

- 最優秀賞 五十洲 ひかり(風間浦中学校3年)
「新島 襄—その行動力と心の支え」
- 優秀賞 水本 都羽花(同志社香里中学校1年)
「アメリカへ至る新島襄の想いを追って」
- 佳 作 前田 瑞穂(同志社中学校1年)
「茶人、新島八重の国際教育」
- 中井 日向子(同志社女子中学校1年)
「心を動かされたキリスト教への思い 武士の家に生まれて」
- 南部 麗奈(同志社中学校1年)
「新島襄が脱国に至った経緯に関して」

【高等学校の部】

- 最優秀賞 久保田 真央(同志社女子高等学校3年)
「源流から大海へ～脱国の出来事から考える「自由」の定義～」
- 優秀賞 畔岡 夏穂(同志社女子高等学校3年)
「八重から学ぶ「宗竹」の心」
- 佳 作 船津 萌実(新島学園高等学校3年)
「新島襄にみるリーダーシップ論」
- 大江 貴子(同志社女子高等学校3年)
「ホノム聖人 曾我部四郎～ハワイで地の塩 世の光となった牧師～」
- 武澤 碧胡(同志社女子高等学校3年)
「同志社女学校とミス・デントン～ミス・デントンからの贈り物～」

ハリス理化学館同志社ギャラリー

本ギャラリーはハリス理化学館（1890年竣工、1979年重要文化財指定）を2013年にリニューアルした展示施設である。同志社の歴史と創立者新島襄の今に息づく精神を2つの企画展示室と6つテーマに分けた常設展示室に所蔵資料を展示して紹介している。



開館時間 10:00～17:00（入館受付は16:30まで）
 閉館日 日曜日（企画展開催中は開館）、月曜日、祝日、
 ゴールデンウィーク・夏期休暇・冬期休暇の一定期間
 実施日数 251日（企画展示室は87日）

2016年度入館者数（2016年4月1日～2017年3月31日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
総入館者	3,736人	4,182人	4,732人	6,636人	3,016人	3,515人
同志社のあゆみ	1,614人	1,618人	1,570人	2,858人	1,357人	1,573人
企画展示室	—	3,985人	3,954人	—	984人	2,430人
京都の中の同志社	2,563人	2,504人	2,400人	6,501人	2,524人	2,613人
同志社の今	1,719人	1,567人	2,421人	3,933人	2,084人	2,002人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4,399人	7,302人	4,605人	2,991人	2,788人	4,337人	52,239人
2,027人	2,457人	1,714人	1,450人	1,232人	2,290人	21,760人
—	1,660人	4,396人	—	—	—	17,409人
4,061人	3,325人	2,468人	1,923人	1,267人	3,067人	35,216人
2,619人	3,731人	2,442人	1,961人	1,468人	2,294人	28,241人

新島旧邸

1875年（明治8）11月29日、同志社英学校がこの地に開校したことを記念し、建学の精神を体感する場として公開している。新島襄の私邸で、ボストンの友人J.M.シアーズの寄付によって1878年（明治11）に建てられた。1985年（昭和60）、調度・家具類を含めて京都市から有形文化財に指定された。建物の保護のため、公開と保存を両立する形に公開方法を見直し、通常公開は、旧邸の周囲から建物内部を見学に留め（建物内への入場は不可）、特別公開のみ、母屋1階と附属屋への入場を可としている。

開館時間 10:00～16:00
 通常公開 4月～7月、9月～11月、3月の毎週火・木・土（祝日を除く）
 特別公開 春秋学期始めより5日間、オープンキャンパス、ホームカミングデー、
 同志社創立記念日、卒業式

2016年度見学者数

4月	5月	6月	7月
1,829人	869人	496人	928人
9月	10月	11月	3月
786人	1,322人	1,625人	1,269人
合計	期間外		
9,124人	21人		



委員会

同志社社史資料センター委員会委員 (2016年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	天野 太郎	女子大学現代社会学部教授
稲岡 恭二	教務部長	伊藤 博子	中学校・高等学校教諭
濱 吉輝	事務局長	瀧 英次	香里中学校・高等学校教頭
八木 匡	人文科学研究所長	平松 讓二	女子中学校・高等学校教頭
植木 朝子	歴史資料館長	戸田 光宣	国際中学校・高等学校教頭
岩田 喬	広報部長	横井 和彦	経済学部教授
吉田由紀雄	法人事務部長		

同志社社史資料センター運営委員会委員 (2016年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	天野 太郎	女子大学現代社会学部教授
濱 吉輝	事務局長	平松 讓二	女子中学校・高等学校教諭
八木 匡	人文科学研究所長	横井 和彦	経済学部教授
吉田由紀雄	法人事務部長		

ハリス理化学館同志社ギャラリー運営委員会 (2016年度)

圓月 勝博	副学長(委員長)	西岡 徹	総務部長
小林 丈広	同志社社史資料センター所長(副委員長)	吉田由紀雄	法人事務部長
植木 朝子	歴史資料館長	横井 和彦	キリスト教文化センター所長
石川 立	神学部長	井上 一穂	文学部教授
中谷内一也	心理学部長		

ハリス理化学館同志社ギャラリー運営委員会部会 (2016年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(部会長)	井上 一穂	文学部教授
若林 邦彦	歴史資料館准教授	小枝 弘和	社史資料調査員
浜中 邦弘	歴史資料館准教授	布施 智子	社史資料調査員
木谷 佳楠	神学部助教	蔭山 兼治	社史資料調査員

事務室

所長	小林 丈広
事務長	上田 裕保
社史資料調査員	小枝 弘和
社史資料調査員	布施 智子
社史資料調査員	蔭山 兼治
社史資料調査員	樋口 摩彌
社史資料調査員	矢部 景子
契約職員	松村 敦子
アルバイト	3名
研究補助員	1名

資料整理

学生アルバイト	交代勤務
大学院生	9名登録
学部生	10名登録

同志社社史資料センター規程

2004年4月24日制定
2004年5月 1日施行

改正 2010年 2月18日
2012年 2月16日
2013年10月26日
2015年 3月28日

(設置)

第1条 本学同志社社史資料センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、創立者新島襄並びに同志社関連資料の収集、整理、保存及び公開業務を継続、発展させ、同志社創立以来の歴史と伝統を後世に継承していくとともに同志社教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 同志社社史資料の研究、収集、整理、保存及び公開に関すること。
- (2) 新島研究に関すること。
- (3) 同志社社史編纂に関すること。
- (4) 『同志社談叢』の発行に関すること。
- (5) ハリス理化学館同志社ギャラリーの管理運営に関すること。
- (6) 新島遺品庫の管理運営に関すること。
- (7) 新島襄旧邸の管理運営に関すること。
- (8) 新島襄及び同志社建学の精神についての啓蒙活動に関すること。
- (9) その他必要な事業

(所長)

第4条 センターに所長を置く。

- 2 所長は、学長が任命し、センターの業務を統括する。
- 3 所長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(同志社社史資料センター委員会)

第5条 センターに同志社社史資料センター委員会(以下「センター委員会」という。)を置き、以下の事項について審議する。

- (1) センターの事業に関すること。
- (2) 社史資料調査員の候補者推薦に関すること。
- (3) その他必要な事項

(センター委員会の構成)

第6条 センター委員会は、次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 所長
- (2) 教務部長、事務局長、人文科学研究所長、歴史資料館長、企画部長及び法人事務部長
- (3) 女子大学、中学校・高等学校、香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校から各1名
- (4) 学識経験者若干名

2 第1項第3号に掲げる委員は、各学校長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 第1項第4号に掲げる委員は、所長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 センター委員会は、所長が招集し、議長となる。

5 センター委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席者の2分の1以上の賛成をもって決する。ただし、第5条第2号に係わる議決は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(運営委員会)

第7条 センター委員会に同志社社史資料センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会は、第3条に掲げる事項についてセンター委員会の要請に基づき、必要な事項を検討する。

(運営委員会の構成)

第8条 運営委員会は、次の者で構成する。

- (1) 所長
 - (2) 第6条に掲げる者のうち所長が委嘱する者若干名
 - (3) 所長が必要と認めた者若干名
- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員会は、所長が招集し、議長となる。

(事務室)

第9条 センターに事務室を置く。

2 事務室に職員若干名を置き、センターの事業、委員会に関わる事務、その他必要な事務を行う。

3 センターの事務組織は、同志社大学事務機構規程に定めるところによる。

(社史資料調査員)

第10条 事務室に社史資料調査員たる職員若干名を置く。

- 2 社史資料調査員は、社史資料の収集、整理、調査、企画、展示等の業務を行う。
- 3 社史資料調査員の選考に関する事項は、別に定める。

(事務の所管)

第11条 この規程に関する事務は、同志社社史資料センター事務室が行う。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、センター委員会及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附則)

この規程は、2015年4月1日から施行する。

同志社社史資料センター利用要項

2009年5月19日制定
2010年5月20日改正
2012年2月20日改正

(目的)

第1条 この要項は「同志社社史資料センター規程」の第3条第1号に基づき、同志社社史資料センター（以下「センター」という）が所蔵する資料等（以下「資料等」という）の利用に関する必要事項を定める。

(利用に関する業務)

第2条 センターは、資料等の利用に関して次の業務を行う。

- (1) 閲覧
- (2) 複写
- (3) 貸出
- (4) 参考調査

(公開と利用制限)

第3条 資料等は公開を原則とするが、次のものは利用を制限する。

- (1) 新島遺品庫資料
- (2) 新島旧邸文庫資料
- (3) 非公開を条件に寄贈・寄託を受けている資料
- (4) 破損または汚損を生じる恐れがある資料
- (5) 個人情報に関する資料
 - ア) 現存者の個人情報に関する資料については、「個人情報の保護に関する規程」(法人)と「同志社大学個人情報保護委員会内規」に基づく。
 - イ) 物故者の個人情報に関する資料については、以下のものの利用を制限する。
 - ① 没後50年未満のもの
 - ② 故人の重大な秘密であり、公開により遺族等に不利益を与える恐れがあるもの
- (6) センター所長（以下「所長」という）が特に指定する資料等。

(利用時間)

第4条 資料等を利用できる時間は、大学が定める休日を除いた平日の9時から17時とする。

2 所長が必要と認めるときは、利用時間を変更することがある。

(閲覧)

第5条 資料等の閲覧は、センター内所定の場所で行うものとする。

(複写)

第6条 資料等の複写・撮影は、著作権法の範囲内で行うものとする。

- 2 破損の恐れがある資料等は、複写・撮影を制限する。
- 3 出版、放映、展示等のために複写・撮影する場合は、所定の申請書を提出し、所長の承認を得なければならない。

(貸出)

第7条 貸出ができる資料等は、同志社大学学術情報システム (DOORS) に登録された図書とする。ただし、禁帯出図書及び逐次刊行物を除く。

2 貸出ができる者は、以下とする。

- ア) 同志社大学学生・教職員
- イ) 同志社女子大学学生・教職員
- ウ) 同志社大学と同志社女子大学の図書館利用カード所持者
- エ) センターが設置する部門研究の参加者
- オ) その他、所長が特に認めたもの

3 貸出冊数および貸出期間は、本学図書館の貸出要領に準ずる。

4 返却を延滞した場合は、当該資料を返却するまで貸出を停止する。

(特別貸出)

第8条 出版、放映、展示等のため資料等を貸出する場合、利用者は所定の申請書を提出し、所長の許可を得なければならない。

(紛失、汚損)

第9条 資料等を紛失・汚損したとき、所長は現物または現金による弁償を求めることができる。

(参考調査)

第10条 センターは、利用者の求めにより次の範囲で参考調査を行い、情報を提供する。

- 1 同志社関係資料の検索
- 2 同志社史に関する事実

(要項の改廃)

第11条 この要項の改廃は、同志社社史資料センター委員会において決定する。

附則)

この要項は2012年4月1日より施行する。

同志社大学
同志社社史資料センター報 第13号

発行日 2017年4月30日
編集・発行 同志社大学 同志社社史資料センター
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel. 075-251-3042 Fax. 075-251-3055
<http://archives.doshisha.ac.jp/>

表紙写真：新島襄遺愛と伝わる天球儀。1701年(元禄14)作製。(同志社大学図書館蔵)